

質実剛健の下に

第三十三回 体育祭

○去る十月四日、我が手に榮冠を。ど、毎年共、心に固く誓つて、魔王回体育祭は開かれ○
○だ。結果は予想通り、キャラード、力ど、團結力に勝つて、三年が、念願の優勝を果たした。

〇ひなた、「一年もよく健闘し、体育祭は盛り上がりを見せ、無事に終えた。この体育祭の〇〇に開幕した年、生徒と生徒との交流が、これから先もよき深まることを望みたい。

校内的重要な行事の一つである後期生徒会役員の選挙も終わった。新執行部は、前回執行部よりバトンを受け取り、只今、エンシニア活動中といよいよである。

そして、前回の反省も兼ねて今後の生徒会について考へてみたい。

とにかく、四月に結成された前期執行部は、一年生会名、一年生四名といふ構成であったため、三年生の「一部」は「も少し」、年生が積極的に生徒会活動にあつたからほしい。やは

り一年生は、入学して間もなく、まだ学校内の事にもまだほとんど理解していない状態だから、その生徒会を任せられるのは少し無理ではないだらうか。」といふ前途未卜の配する声を聞かれた。

しかし、執行部はそういう状態の中で、教師と生徒との断絶、好青年のクラフ文化等の問題に取り組んだ。これらの問題は、完全に解法されたとはいえない。その原因となるのは、当然執行部の活動の不足もあるだらう。しかし、何どり組み、解決してほしいものだ。

トした。得点では、年がトップを切ったが、男子一百、四百が終了するも、三年が二年を押して、一、二年に出た。しかし、「一二年生に負けまいと存分に力發揮し、二年は女子麻雀、一年は千五百スタートルで大賞得点をばらし、次第に自然戦となつてつた。

そして、おひやいと財具に身固めた若高剣士による野試合、年のこの春のダンス、花園の朝一年男子による突然とした徒手

樂陵新開

発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行編集
若松高校新聞部
印刷所
阪本印刷所 @1527

行事予定

前を戦せざる
ことをおわび
い。
士徒
部発言
いりたいこ
の？
たの？
はいるけど
の？
う。
制の問題。どれもいよいよと並び
理化。職員と生徒との交流。定期
題。同好会のクラブ化。売店の合
意など、やや複雑な気持がでます。
ところで私は手がけてきた問題
をまとめておきたいと思います。
これが今の若者生にひつたため
詩であると思うのです。即ち自分
といら存在を意識していない。自
分の夢を実現に移さない、そして
他人の声には無関心。私達が執行
部を去る最後の言葉としてこの時
意図したのです。私達は本当に
非難してくれなかつたあなた達に
感謝しているのやら恥じていい
の？

前の部
ソリレ
調査に
十一二
ハハ中
人氣の
り、次
とも深
ゆるい

Digitized by srujanika@gmail.com

返事をしてよ。
おひこして気が入るじやない。
——若高生の喫きよ——
これが今の若高生にぴつたための詩であると思うのです。即ち自分といふ存在を意識していない。自分の夢を実行に移さない、そして他人の声には無関心。私達が執行部を去る最後の言葉としてこの詩を選んだのです。私達は本当に迷惑をかけたのです。それからあなた達が非難してくれなかつたあなた達に感謝していくのやら恥じんでござりません。やがて複雑な気持がです。
——それで私はが手がけてきた問題。同好会のクラブ化。売店の合理化。職員と生徒との交流。定期課題の問題。どれもおひこしてよ

栄冠が輝く第一回体育祭は、雨も降らなくて大成功の内に幕を閉じた。

「おまえが、おまえのやうな事の生徒は何處で見つかる。おまえが、おまえのやうな事の生徒は、何處で見つかる。」

は落ち
。「早
、成績
おい」
る。

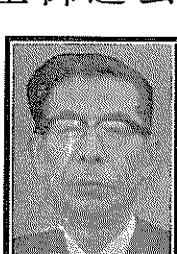
前の時点よりは、
これまでじつに私が
すきであれど、前
かし思ひねど、よ
深感を感じさせ
られない問題である。
校則違反をするとい
はや習慣となり、やがて
れでしきりたのゞり
か。注意されても時々
このをもとめたる本意を
うながす。一語に表す
が特に触れていた。
たり、前髪が長
すきであれど、前
かし思ひねど、よ
深感を感じさせ
られない問題である。
校則違反をするとい
はや習慣となり、やがて
れでしきりたのゞり
か。注意されても時々
このをもとめたる本意を
うながす。一語に表す
が特に触れていた。

以上二点が、この場での話題に合間に、と今の問題で、
内外においても
やっている問題であ
ることが多い。
たるの乱れた風紀は
また、無錫登校の
が、これもなかなか
現状だ。
いっこうに回復
靴の件でも、風紀
の使用は禁じられた
り「雨の日は困る。
面倒だ。」という理
由があるのにもかか
わらず、さすがに
人が皮靴を使用し
委員会も皮靴使用に
の対策も行なっては
最後に難儀の件でと
問題とされるの
が続きました。
当分、この状態
が続いた。ま
ず、第1番に
ます、第2番に
問題とされるの

美化、かのとは学校行事をめぐる、いにしへの生
いふ。そのため、毎日の生活感、位置、といふもの
活気のない、魅力のない学校生 我々には、勢
ふるのだ。これは、早速クラスの
問題である。従って、早速クラスの
利がある。そん
学舎を作つて、
事を取り合はせて考えてみる
にしたために、

ふる先、社会を出てからも是非必ず
記入合ひのマナーへ社会的思考力
をもつてくねばすである。そし
て可能になつてゐるH・Rとは、
かひとつなり物事をみつめ考え方
として激しい若者の感情があつ
て、上の手で書いたとおり、眞の友情を生まねるなり
いつ懇意が禮儀で

浙大學生先生告辭



立に立たれ、あかし。ではなか
か。そしてこれこそ、希望とし
につながる若心の象徴でも
といふべきであつて、恐れ生ば
学人として自己の知的能力の限
拵む機会を得るわけであるが
れこそ自己啓示の機会であり、
たゞない自己内察の機会でも
といふべき。この事を肝に銘
じて、いかにもよいと努力を頑
し、受験苦を克服していくつで
いものだ。ケーノも「社運け
打坐して泣きしことなく、涙
れてパンを噛りしことなく著者
政治上の力を知ら」よ書つて
る。「自分は、過去古の能力の
部を傾けて、事に当たつたこと
あったか」と自問自答して欲
るものである。

